



大勢の人が出席して開かれた玄洋社記念館の「物故三理事長合同慰霊祭」

進藤一馬先生 妹尾憲介先生 久保田秀己先生

玄洋社  
記念館

# 物故歴代3理事長を偲ぶ

## 合同慰霊祭に200人

今年が玄洋社記念館の初代理事長、進藤一馬先生（元福岡市長）の十七回忌、第二代理事長、妹尾憲介先生（元福岡市議会議長）の十三回忌、第三代理事長、久保田秀己先生（元福岡市議会議長）の三回忌という巡り合わせになったことから、三先生のご遺族を迎えての斎行となった。

出席者は、国、県、市会議員はじめ福岡市役所現職、OB職員、進藤先生自身の福中・福高同窓会、社団法人福岡さくららの会、励志会、玄洋社記念館賛助会員、親交者、一般市民の皆さんなど広範囲に及んだ。

「玄洋社」の真実の姿の伝承を目的に、進藤先生（元福岡市長）の十七回忌、妹尾憲介先生（元福岡市議会議長）の十三回忌、久保田秀己先生（元福岡市議会議長）の三回忌、田先生が引き継いできた。

「福岡さくららの会」、松村隆会長の発声で献杯。懇親会に移った。

「玄洋社」の真実の姿の伝承を目的に、進藤先生（元福岡市長）の十七回忌、妹尾憲介先生（元福岡市議会議長）の十三回忌、久保田秀己先生（元福岡市議会議長）の三回忌、田先生が引き継いできた。

「玄洋社」の真実の姿の伝承を目的に、進藤先生（元福岡市長）の十七回忌、妹尾憲介先生（元福岡市議会議長）の十三回忌、久保田秀己先生（元福岡市議会議長）の三回忌、田先生が引き継いできた。

「玄洋社」の真実の姿の伝承を目的に、進藤先生（元福岡市長）の十七回忌、妹尾憲介先生（元福岡市議会議長）の十三回忌、久保田秀己先生（元福岡市議会議長）の三回忌、田先生が引き継いできた。

「玄洋社」の真実の姿の伝承を目的に、進藤先生（元福岡市長）の十七回忌、妹尾憲介先生（元福岡市議会議長）の十三回忌、久保田秀己先生（元福岡市議会議長）の三回忌、田先生が引き継いできた。

物故された歴代理事長を偲んで、社団法人玄洋社記念館（吉村剛太郎理事長）は、昨年十一月二日、福岡市中央区天神一丁目の国際ホールで「物故三理事長合同慰霊祭」を執り行った。三理事長ゆかりの人たち約二百人が出席した。（2、3面に写真グラフ）

吉村理事長は主催者挨拶で、玄洋社の精神を歴史に残す諸活動と資料の散逸防止に取り組んだ先輩三先生の遺徳を讃えた。そして「今、国際情勢は混迷を極めてい。玄洋社が唱えた自由民権思想、大アジア主義、皇室尊崇という精神は、いつの時代にあっても我々が失ってはならない大きなテーマだと思。この玄洋社精神を、今後も世の中に広めて行きたいと思っ

「玄洋社」の活動は、薩長藩閥政治批判、自由民権運動の福岡における中核、辛亥革命支援などで知られるが、そればかりではない」として、玄洋社が福岡では一つの政治集団であったという側面が、衆議院議員選挙を舞台にした安川財閥の創始者、安川敬一郎とかかわりを通して、興味深く語られた。

「福岡さくららの会」、松村隆会長の発声で献杯。懇親会に移った。



館 報  
発行 社団法人 玄洋社記念館  
福岡市中央区大手門二丁目6-21  
ヌーヴェル大手門1階  
電話 (092) 762-2511  
F A X (092) 762-2502

玄洋社憲則  
第一条 皇室ヲ敬戴ス可シ  
第二条 本國ヲ愛重ス可シ  
第三条 人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容  
▽「物故三理事長合同慰霊祭」写真グラフ 2、3面  
▽連載「追悼録」から 2、3面  
▽「中野正剛先生顕彰祭」にオーストラリアから令孫真理さん 4面  
▽来館者の声 5面

感じている」と述べた。  
ご遺族は進藤先生の長女、洋子さん、妹尾先生の長男、俊見氏（福岡市議会議員）、久保田先生の長男、仁（めぐみ）氏（会社員）が出席。代表して洋子さんが「今ごろ黄泉の国では三人が集まってアラカブのあら炊きなどをつつきながら焼酎を酌み交わしているのではなかるうか。大勢に集まってもらってありがたい」と謝辞を述べた。

### ゆかりの人々が集う

# 追慕の念新たに

写真  
グラフ

## 物故三理事長合同慰霊祭

進藤一馬先生、妹尾憲介先生、久保田秀己先生―花に囲まれた、ありし日の三先生の写真が正面に飾られた「物故三理事長合同慰霊祭」(社団法人玄洋社記念館主催)の会場にはゆかりの人たち約二百人が駆けつけた。式典で挨拶に立った方々それぞれから、三先生のご遺徳の一端などが披露され、出席者は昔日の思い出を新たにした。(一面参照)

酒肴を楽しみながらの懇親会では、久しぶりの挨拶を交わしたり、思い出話が弾む人たちの姿も多く見られ、三先生に連なる人脈の同窓会のような雰囲気もあつた。会場に備えられた「思い出の写真」アルバムが好評で、見る人にはかつての日々を懐かしむような表情がうかがえた。

九州大学大学院、有馬學教授の講演は、玄洋社の活動の、あまり知られていない一面を紹介するもので、出席者の興味を呼び、慰霊祭を引き締めた。



「献杯」―そして懇親会に



講演をする有馬學教授

## 進藤一馬先生・妹尾憲介先生・久保田秀己先生を偲 物故三理事長合同慰霊祭

社団法人 玄洋社記念館



花に囲まれて三理事長の遺影が並ぶ祭壇。遺影は①から妹尾先生、進藤先生、久保田先生

### 進藤喜平太翁追懐記 第2部

## 「追悼録」から

進藤喜平太翁追懐記 吉田 庾

私は其翌日警固の婦人交りの家族と那珂郡ネチ嶽に遠足の前約ありて赴き、歸来して聞くに、進藤さんは林氏の宅より其他の人々も嫌疑ある人は官憲に引かれたりと言ふ。そは、来島爆弾事件の關係者としての事なりと。

其事件に關係されしか、全々知られざる事なりしか。之れを想うに當時多少の事情は屹度耳にされ又多少関聯されたる事やあらんと思えるが、當時方角も分らぬ出野の私も大いに感ずる所あり、平然たる翁の態度は私かに追懐さる、事なり。

一、政治的等の要綱は未だ耳にせざる地位なりし時、筑前、豊前、筑後有志が小異を去り大同の趣意により創立されし三州会なるもの起り、筑後の野田卯太郎氏や福岡の進藤氏の斡旋ただならず野田氏の円滑振り、進藤氏の眞直振りは對照甚だ趣きあり今尚眼底に止まるが如し。當時私は録事として書記を努めたり。

一、筑前協會・筑前人の協會にて政治的に種々異なる点ありて萬事に都合悪しければ協同外に向ふべき趣旨より出でたるものならんが眞直の人には何人も抗せず其纏につき進藤氏の奔走眼に見るが如く、不破國雄氏等の出入其他多数の出入繁きに至れり。

一、成績良き青年学生にして学資乏しく為めに退学の止むなきに到れる憐れむ可き人ありしが、之れを聞きし人が翁に工夫を請ふや翁は心當りの福岡紳商の一二を尋ねて其承諾を得られ、書生をして雀躍せしめたる事などあり。私も明治二十三年同氏の好意に預かり平岡浩太郎氏の承諾を得て、岸本辰三郎君

# 尽きぬ思い出話



①から元福岡市助役・大石秀雄氏、  
②玄洋社記念館・吉村剛太郎理  
事長、(財)明道会・山崎拓理事長、  
③福岡さくらの会・松村隆会長



「ご遺族の④から妹尾俊見様、進藤  
洋子様、久保田仁様。代表して進  
藤洋子様が謝辞を述べられた



④は思い出話に花が咲い  
た懇親会⑤は話が弾む進  
藤先生が市長当時の秘書  
課の人たち



と同家親戚一名と始めて上京遊学の途に就けり、個人としての追懐頗る深く且身体流汗を覚ゆるのみ。又、当時東京に於ける学生にて平岡翁の庇陰による学生は十数名に上り親しく出入し後政務局長たりし山座円次郎君や、相生由太郎君等の如き何れも多少の縁内にありしを知る。

一、騒擾時代の同志にして其後経済上頗る窮迫せる人もありて屢々同翁を訪れるや、及ぶ丈はいつも乍らの芳情を表せられたるやに聞けるは、餘り人の知らざる事なる可し。

一、栄枯盛衰は何事にも免れざる所にて玄洋社に於ても経済上随分困難時代もありし様子なるが、此際屢々執達吏に襲われて二重三重の枠内に押込まれ、同翁は私財を出して四苦八苦を切抜け本体を汚さず忍耐之を凌がれし時代も相当長期に亘り、経済上巧者ならずと思わるる同翁を思えば眞に恐縮の外なかる可し。然も如斯時代は浮き世の常と言ふ可きか門前蜘蛛の網も掛る事多き時にて、同翁の胸中如何なりしかと追懐す。

一、明治三十九年十月国會議員平岡浩太郎翁逝去に付、其補欠選挙に進藤氏當選議員となり河村武道君を秘書として上京されし由なるが私は他県より帰福後聞きし處によれば、進藤さんならと別派同派の差別なく賛同異議なかりしと言ふ。以て其の平素を知る可きに非ずや。



崇福禅寺の山門

一、高場先生逝去後、明治三十一年十月、進藤翁浦上勝太郎氏會主となり高場先生の同窓会を崇福禅寺にて開催して法要を営まれ、會者二十数名位なりしと覚ゆ。(続く)



厳粛に斎行された顕彰祭

### 「中野正剛先生顕彰祭」を斎行

## 愛国の至情堅持を誓う

憂国の士、中野正剛先生を慰霊、顕彰する「中野正剛先生顕彰祭」(主催〓中野正剛先生顕彰会)が、昨年十月二十五日、福岡市中央区今川二丁目の鳥飼八幡宮境内に建つ中野先生の銅像前で行われた。七十人を超える参列者があった。

### 中野先生の令孫

### 真理さんが参列

山内勝二郎宮司を司祭に、玉串奉奠などの神事があり、続いて筑前琵琶日本旭会総師範中村旭園さんによる「中野正剛」の献奏、法螺貝吹鳴などがあった。

### 同顕彰会の吉村剛太郎

議長は「今、日本は激動の時代を迎えている。中野先生が生命を賭して国情を憂えたのと同様に、私たちも一層、愛国の至情を堅持すべきではないか」と訴え、



墓参りする真理さん(左)とチエ子さん(右)

とを知り、お礼を言いたくして出席を決めた、という。直会では「福岡は第二の故郷」と、小学校四年から中学一年まで福岡で過ごしたことなどを語った。

このあと、真理さんは中野先生の従兄の子、中野武成氏(平成十八年歿)夫人、チエ子さん(73)〓同市城南区松山二丁目〓と中野先生の分骨が埋葬されている同市中央区大手門二丁目、正法寺の墓に参った。

泰雄氏は一昨年、病を得られ、真理さんは看病のため三カ月ごとに帰国していた。泰雄氏は、昨年十一月六日に退院された。

東京に戻った真理さんは「福岡の顕彰祭で大勢の人の話を聞いて勉強になった。今後は、毎年、家族の誰かが出席するようにしたい」との言葉を残して翌七日にオーストラリアへ戻った。

## 頭山満翁並びに玄洋社物故者墓前祭

### 先覚の精神継承を願う



焼香をする参列者

### 厳粛さの中で焼香

玄洋社の物故先覚を慰霊する「頭山満翁並びに玄洋社物故者墓前祭」が、財団法人明道会主催で昨年十月十二日、福岡市博多区千代四丁目目の崇福寺で行われた。

### 祭主の明道会理事長、山崎拓氏(衆議院議員)は

玄洋社遺族はじめ明道会関係者や社団法人玄洋社記念館関係者など、玄洋社に崇敬の念を寄せる人たちが約四十人が参列した。

慰霊の式は本堂で行われた。渡邊桂堂住職の読経が

も郷土福岡のバックボーンとして継承されることを願う」と挨拶した。

参列者は、本堂での慰霊の式に先立ち、柔道場「明道館」の門弟によつてきれいに清掃された墓地に参詣した。

## 勤皇諸烈士を追悼

### 「節信院」で加藤司書会

薩摩、長州、筑前の三藩連衡を模索しながら乙丑の獄で無念の最期を遂げた筑前藩勤皇派家老、加藤司書前藩勤皇党志士を慰霊する「加藤司書公並びに勤皇諸烈士追悼会」が、昨年十月二十五日、福岡市博多区御供所町にある司書公の菩提寺「節信院」で「加藤司書会」により執り行われた。約七十人が参列した。



「節信院」での追悼会

司書公の肖像を描いた軸が掲げられた本堂で、嘉納浩一住職を導師に法要が営まれ、筑前琵琶日本旭会総師範、中村旭園さんの献奏や尺八の献笛、詩吟吟詠で慰霊した。

筑前維新史研究会の力武豊隆会長の講演もあり、参列者は、日本近代化のために尊い命を捧げた司書公、志士ら先覚の崇高な精神に感服の念を新たにされた。

# 来館者の声



来館者の声

声

声

声

声

声

声

声

声

声

声

声

声

声

声

声

名前だけは存じ上げていた方々が、いかに国を愛し、そのためにいかに憂え、闘ってきたか...を改めて知りました。

とにかく私たちの先人はすばらしい人々でした。守らねばなりません、この国を。

〔福岡市・78歳・主婦〕

記念館の閉館、大変惜しまれてなりません。博物館での展示には是非、足を運びたいと思います。今日までご苦労さまでした。

〔福岡市・79歳・男性〕

名前だけ覚えていた人たちが、福岡

郷土の先達の熱い思いに触れ、心洗われる思いです。

〔小郡市・56歳・男性・新聞社員〕

是非、いつの日か展示の機会を宜しく願っています。

〔福岡市・44歳・男性・会社役員〕

この記念館をもっと早く知ることができれば、まだまだ見ることができましたが、時間が足りなかつたことがとても残念です。

貴重な資料をたくさん見ることができて、とても良かったです。

〔32歳・男性・自営業〕

とても素晴らしい展示をありがとうございました。

父、中村隆好が東方会山門支部長として中野先生を尊敬していたして居りました。

瀬高へも演説に来て戴きました。今日、閉館を迎え、感慨深い思いで居ります。

〔福岡県みやま市・76歳・女性・旅館経営〕

とても充実した内容に大変驚き、感動いたしました。杉山茂丸に興味があったのですが、玄洋社全体に興味を持つことが、今日、できました。

素晴らしい展示をありがとうございました。

〔京都市・20歳・女性・大学生〕

とても素晴らしい展示をありがとうございました。

〔福岡県新宮町・31歳・男性・大学院生〕

お詫びして訂正します。



# 新年賀謹

## 平成21年元旦

建設コンサルタント  
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理  
**ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社**  
代表取締役 花田 三郎 勲  
代表取締役 尾 三郎 勲  
代表取締役 長 尾 三郎 勲

本 社 福岡市博多区東比恵三丁目二四一九  
千八二・〇〇七電話(092) 481113100  
東京支社 東京都杉並区高円寺南一丁目三三〇  
千六六・〇〇三電話(03) 537815800  
営業所 千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

福岡鮮魚市場のコア企業!! 21世紀の水産業界を領導するアキラグループ  
◆鮮魚卸業◆  
**株式会社 アキラ水産**  
代表取締役社長 安部 泰宏  
本 社 福岡市中央区長浜3丁目11-13-11  
電話092-7111-6600(代表)  
関連会社/株式会社コウトク水産

創業文化五年(一八〇八年)  
合資会社 米長商店  
**富永信太郎**  
味噌・醤油

造園・緑化 自然とコミュニケーション  
株式会社 別府梢風園  
代表取締役社長 別府 壽信

(財)日本医療機能評価機構認定  
開放型病院・臨床研修指定病院  
特定医療法人  
**原土井病院**  
理事長 原 寛

HARADOI HOSPITAL  
〒813-8588  
福岡市東区青葉6丁目40番8号  
☎092-691-3881(代)  
http://www.haradoi-hospital.com/

# 玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第 44 回

## 宇田川文海『西南拾遺』(十四)

(早稲田大学図書館所蔵)

《二人の女性を手玉に取る放蕩息子としてこの物語に登場した森震志は、放浪の旅で成長し、明治七年佐賀の乱の直後に福岡に帰ってきます。こうして明治十年の土族反乱の時代に遭遇するのです。それが西南戦争としての「福岡の変」です。

明治十二年九月刊行

小室信介編

宇田川文海編輯

### 『西南拾遺』巻之四

森震志、故郷に帰る

薩賊蜂起(続き)

『西南拾遺』がどうして「玄洋社関係史料」なのか、頭をひねりながらお付き合いいただいた読者にもようやく得心がいったというところでしょう。ここに書かれていることがどこまで事実を反映しているのかはわかりません。ただ、森震志が「福岡の変」の幹部であったことは事実で、『西南拾遺』は実在の人物をモデルにした小説です。次回からいよいよ「福岡の変」へと進んでいきます。

夕日まばゆき勢田の橋、雲雀あがれる野路の里間の土山、雨晴て鈴鹿の残る白雲や、伊吹が嶽を北にして、伊勢路もいつかゆきゆきて、長の旅路や山鳥の尾張の国にぞ入りにける。心留としなけれど、身の行末もおもはれて、いかに鳴海の潮干潟、涙に袖はしほれつつ、ゆけば尾張も後に見つ、かの在原の某のから衣きつつ馴れにいと詠めけん、三河国の八ツ橋にもなりぬれば、蜘蛛手に物を思ひつつ、矢矧の橋をわたり

ては、豊太閤の故事に志ざしをも励ましつ、荒井の渡しには人世の波濤を感じて行路のかたきを寛りぬ。

うちよする駿河の海も跡に見つ、左手に折れてなまよみの甲斐の山路にさしかかり、徳川義祖の廟所と称えらるる身延の山に参籠しつ、一夜祈願を籠めたりき。是れ震志に深き心ありとも、又知る人ありし故とも伝ふれども、其実を知るものなし。只震志が故郷に帰りし時、或人に身延山の守札を土産に与へしことあるを以て路次に立寄りしものと想像するのみなりかし。

かくて爰をも立出で甲州街道を東にとり、内藤新宿より東京に着きたりける。途中にてひまどりければ、着する頃は七月中旬となりぬ。是年は征韓の議論紛々と起り、廟堂の大臣分裂して西郷・副嶋の諸氏、職を辞して皆故郷に帰りけるにぞ。天下何となう物騒がしく、今にも大事始らんかとおもふばかりなりければ、震志も東京に足を留めて、時の動静を伺ひしが、其年

の松江を元の如く震志に妻合せたりしかば、震志も今は隔つる心なく、いと睦じうかたらしひけり。又松江の親里、吉岡はかねて震志の放蕩を憂へ居りしが、石東の実意もて、娘松江も長の歳月養はれ、且つ震志さへ正しき人となりければ、其喜びいふばかりもなし。これ皆石東の恵みぞと、常に往通ひて其高恩を謝するに

し。此は後の物語なれど筆の序に書せるのみ。石東の事、この下に物語なし。却説く。震志は春吉村の家に帰りて松江と二度の夫婦となり、今度は前非を悔みたる身にすれば、前につらかりしことに引かへて、いと優しうあひしらひけり。松江も今は今生の思ひたりぬとうれしみつつ、夫が前年つれなかりし時には更蘭に夜静かにして長門関として開かず、月冷しく風秋にして団扇香として共に絶えなんど、遊仙屈の文ながめて恨みしも今は昔語りとなしつ、閨のかたらの種ともなすめり。されど松江は心ばへ優なる女なれば、我がかくうれしきにつけては、又小梅のなしみとやらなんと思ひめぐらして、或時は夫にすすめて小梅の許へもかよはせけり。

比叡の山をはちばかりかさねあげたらんほどして、形はしほじりのやうになんありけるといひし、富士の峰のまだかのこまだらにふりつもる雪の解けやらぬは、我の心の結ばれしにもたくらべん。さりとして又功名の不二の峰の高きにくらふる程にたかかりせば、淡雪のとけてはかなく此世を去るも残の念はなからまじ、なんどおもふめり。斯くて静岡をも過ぎければ、

乗りて肥前の国におもむきけるが、聞ししにも似ず、江藤の軍配つたなくて、到りつく頃は事平きて後なりしかば、大に望を失ひつ、いかにやせんと惑ひしが、さればと再び東国にもゆきがたければ、其儘足を故郷に向け、筑前さしてぞかへりける。斯くて中郡春吉村にかへりて此由親族・朋友にも告げければ、皆集ひ来て其無事を寿ふきつ、旅の疲れを何くれと慰めんとぞなしたりぬ。

かくと聞て組頭石東氏も集ひ来りて震志が身持正しうなりしのみならず、諸国の人に交りて其人柄さへいと気高うなりければ、いたくこれを喜びつつ、此上は何をか疑あやぶむべきと妻

に積載せて大阪に來りしが、都合ありてか奈良にゆき、三笠山の下にて石東岩成と名乗り筆屋をなして世を渡りしが、昨十一年の春国許より家内の者さへ引取り、今猶裕かに暮せるよ

かりければ、小梅もふかく松江の情を感じて、前年震志を我許にひきつけて久しう帰さざりしことをも恥ぢ悔みつつ、しばしば訪ひ来て我過を松江に謝ひつて日を経たりしかば、今は二人も打解けつ、心の底をもあかしあひ、はては姉妹の約までなしたりける。



古い寺とマンション、飲み屋、町家が混在する現在の春吉(福岡市中央区)

かりければ、小梅もふかく松江の情を感じて、前年震志を我許にひきつけて久しう帰さざりしことをも恥ぢ悔みつつ、しばしば訪ひ来て我過を松江に謝ひつて日を経たりしかば、今は二人も打解けつ、心の底をもあかしあひ、はては姉妹の約までなしたりける。